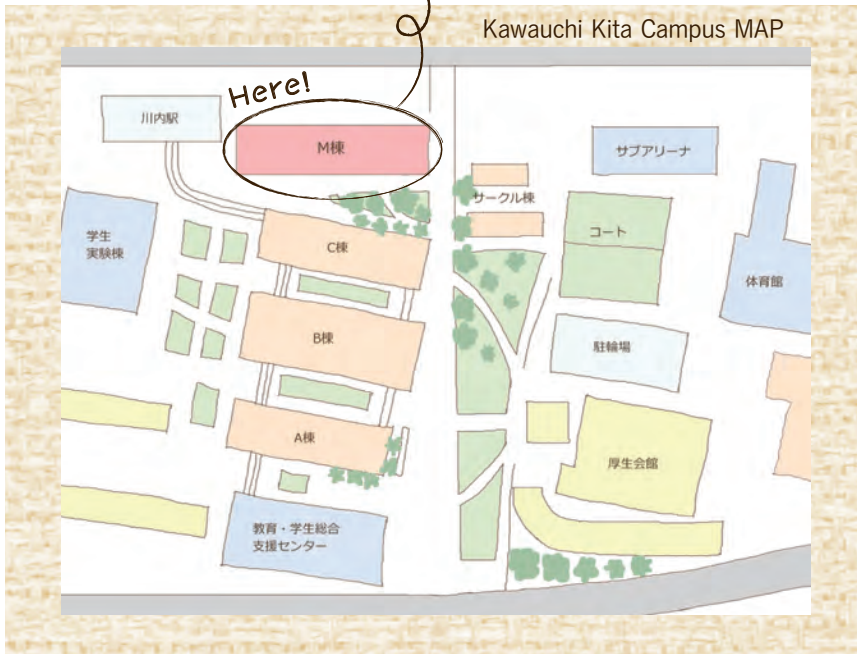


\ Signs /



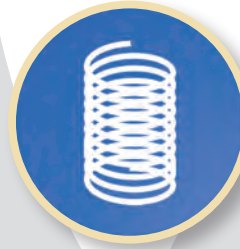
Kawauchi Kita Campus MAP



ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち  
Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI !

### ともそだち本2019

2019年3月発行  
発行者：東北大学学習支援センター（SLAサポート）  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 マルチメディア教育研究棟1階  
[TEL] 022-795-3374 [FAX] 022-795-4743  
[Email] sla-support@grp.tohoku.ac.jp  
[HP] <http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp>  
[Twitter] 「東北大学学習支援センター（SLA）」



学習支援センター活用ガイド&学習支援ブック

# ともそだち本 2019



SLAサポートの使い方や  
先輩たちからの学習アドバイスを  
1,2年生向けにお届けします！

Lecture Rooms A

Lecture Room

Lecture Rooms C

Multimedia Education and Research Implementation and

# 目次

## CONTENTS

### [PART1]

## 学習支援センターを知ろう

- 05 学習支援センター概要
- 07 SLAラウンジの案内
- 09 サポート別利用案内
- 17 利用状況・利用学生の声

### [PART2]

## 学びのコンテンツ

- 21 大学の学びへ
- 23 誠実な学びと研究—アカデミック・インテグリティ—
- 25 学び合いのススメ
- 27 「ファシリテーション」を意識しよう
- 29 SLAによる学びNAVI  
▶物理 ▶数学 ▶化学 ▶ライティング ▶英会話 ▶学び方

### [PART3]

## あなたも未来のSLA!?

### ～学習支援センターの裏側紹介

- 43 SLAとは
- 45 SLAとしての学びの機会
- 47 SLAからのメッセージ♪

スタッフ一覧

1年生のみなさん、こんにちは!  
本書は、SLAの先輩たちとともに作成した  
学習支援センターの案内&  
1年生向けの学習支援冊子です。

大学での学びのスタートに  
本書及び学習支援センターを  
ぜひ上手に活用してください!

おまけ

ページ下にあるのは、「自分を1歩高めるための40の提案」です。SLAから実体験も踏まえたアイデアを集めてみました。ピンと来たら、ぜひTRY! 何かが変わるかも!?

## 01

学習支援センターを  
知ろう

about the  
Center for  
Learning  
Support

## 1年生におすすめする本

福沢諭吉  
『学問のすゝめ』  
岩波文庫、1984年



「実のなき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり」と、手紙の書き方、帳簿、算盤、天秤の扱い等を心得ることが先ず大事であると諭吉は言う。さらに「進んで学ぶべき箇条は甚だ多し」と地理学、究理学(物理学)、経済学等とともに歴史学と修身学を挙げ、そして自伝や『物理学之要用』、『続福翁百話』では物理学こそが諸学問の基底であり「一身独立して一国独立」の為の根本であると述べる。

しかしこれは精神よりも物質を中心価値として標榜したのでも、学問の中心を人文社会から自然界に移したのでもない。倫理と精神の軽視ではなく、逆に物理学を学問の原形に置くことによる「新たな倫理と精神の確立」を目指し、「自然科学それ自体乃至その齎した諸結果よりも、むしろ根本的には近代自然科学を産み出す様な人間精神の在り方」を問題とした(丸山眞男「福沢に於ける「実学」の転回」『東洋文化研究』3号1947)のである。つまり諭吉のすすめる学問あるいは「実学」とは、「すぐに役立つ学問」ではなく、修身、道徳あるいは「時代の問題と切り結ぶための知恵」(藤田清一氏の言葉)である。

今も、今こそ、真に必要とされる「実学」とは時代と切り結ぶ「人間精神の在り方」あるいは「哲学」である。諭吉はいわば新しい「教養主義」の必要を実学の立場から強調したのであり、これは遠く明治時代の過去の課題ではなく、「文明の外形のみを論じて、文明の精神をば捨てて問わざる」(福沢諭吉「文明論之概略」1875)現代日本と応用学を重視し基礎学を軽視するその現代日本の大学においてこそ、火急の必要である。そのような学問をすすめる。

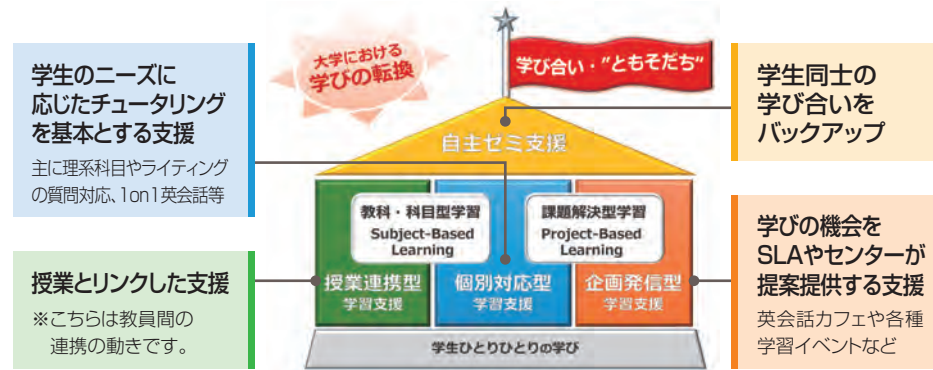
(文・芳賀 満/学習支援センター長)

## 全学教育での1・2年生の学びを支援!

学習支援センターは、主に学部1・2年生(全学教育段階)の学びをサポートする組織です。サポートを担うのは、「SLA(エスエルエー)」と呼ばれる先輩学生たち。学生同士の学び合いの力を活かして、リメディアル支援からレベルアップ支援まで、幅広い学習サポート活動を行っています。

授業だけだといまいち理解しきれないという人、大学の勉強の仕方がよく分からないという人から、もっと進んで勉強したいという人、学問的な議論をしたいという人まで、一人ひとりのニーズに応じた利用が可能です。

「あなたの学びを一歩進める」きっかけに、ぜひ当センターを活用してください。



## SLAは学部3年生以上の学習支援スタッフ!

SLA(エスエルエー)とはStudent Learning Adviserの略で、東北大学独自の学生による学生のための学習支援スタッフです。学部3年生から大学院生という幅広い層の先輩学生たちが、全学教育を受ける学部1・2年生の学習サポートを行っています。

コンセプトは学生同士の「学び合い」。一人でがんばる勉強ももちろん大切ですが、「大学的学び」には「学び合い」も不可欠!そこで、「ともと学ぼう、ともに育とう、「ともそだち」をキーワードに、「学び合い」を充実させるサポートを様々な角度から行っています。

- 学生の主体的な学びをサポートします。
- 「わからない」不安も、「もっと学びを深めたい」やる気も、どちらも応援します!
- “先輩”の力を活かした学習支援です。具体的な質問以外にも、勉強の仕方などの相談もOK! 気軽に利用してください。

## 総合案内 | SLAサポートを利用してみよう!

### まずは利用者登録!

初めて利用する際は、センター窓口にて声をかけてください。ユーザーズカードを発行します。次回、SLAを利用する際にはカードを持って来てください。



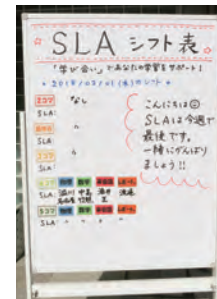
### 予約制ではありません。気軽に利用してください!

混み合った際は「待ち札」をお渡しします。30~40分以内に案内できるようにしていますので、ご協力をお願いします。

### スケジュールはコチラで確認!

SLAは、原則授業期間中に活動しています。スケジュールは曜日やセメスターで変わります。

「東北大学 SLA」で検索!  
ポスター・SLAインタビュー・  
ブログなども見られます!



入口の外看板



ポスター



@sla\_tomosodachi  
Twitter



www.cls.ihe.tohoku.ac.jp  
ホームページ

### 利用の際はSLAに声をかけてください!

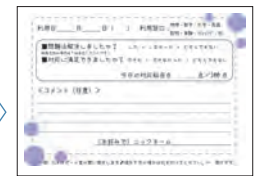
「〇〇の質問」  
または  
「英会話」  
お願いします

何の利用か教えてね。



利用記録用紙の学生記入欄  
に記入をお願いします。

利用



最後はアンケートにご協力ください!

# センターはSLAラウンジ内にあります

勉強・雑談・飲食OK! SLAの利用がなくても自由にご利用ください♪

## SLAラウンジ

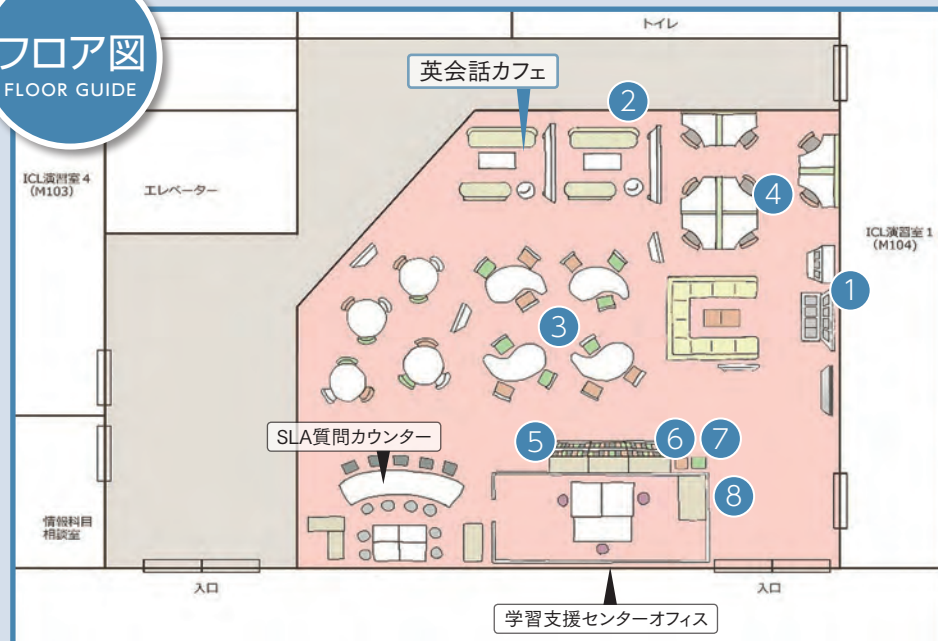
マルチメディア教育研究棟1階(MAP:A05)

[開室時間] 8:30~18:00

学習支援センター窓口

SLA質問カウンター

### フロア図 FLOOR GUIDE



1

### NEWS PAPER

全国紙・地方紙・英字新聞計6種類を配架。記事紹介コーナーもあります。



2

### SEMINAR SPACE

ゼミなどの大人数で勉強するときに活躍。ペン類を貸出しています。



3

### TABLE

勾玉形の机は組み合わせ可能。つなげれば大人数でも使用できます。



4

### FOR ONE'S STUDY

個別ブースは8つ。適度な埋まり具合でいつも使ってもらっています。



5

### BOOKS

勉強系、教養系、図鑑系があります。東北大学の先生方の著書コーナーもあります。



6

### MESSAGE

利用学生さんのコメントを返事付きで一部掲載しています。



7

### PROFILE

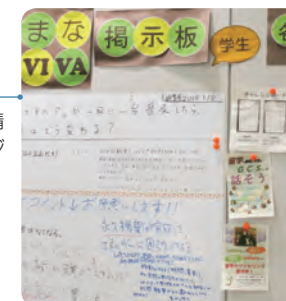
SLAのプロフィールを掲示。学年学科や得意分野のほか、出身や好きなものなども掲載。SLAと雑談でも盛り上げられるかも?



8

### BURTAIN

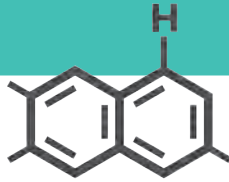
学習に役立つ情報や、チャレンジボードを掲示中。



## こんなサポートをしています

### 理系科目 >>> 10 ページへ

- 物理・数学・化学・実験等の質問を受け付けています。
- 質問だけでなく、“相談”や“議論”もOK。
- 文系学生の利用ももちろん歓迎です!



### レポート >>> 11 ページへ

- アカデミックライティング(レポート)のコツをあなたの文章に即してアドバイス!
- 構想段階、執筆段階、執筆後、どの段階の利用も可能です。
- レポート以外の文章や留学生の日本語文章相談も受け付けています。



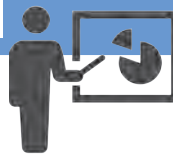
### 英会話 >>> 12 ページへ

- みんなで話す「英会話カフェ」とマンツーマンの「1on1英会話」があります!
- 留学生SLA、日本人SLA両方います♪
- 英語が苦手という人も、レベルアップしたい人も両方歓迎です!



### イベント・企画 >>> 13 ページへ

- 不定期に開催。参加すれば大学生活がちょっとずつ充実!
- 先輩たちや、他学部の人と出会うチャンスかも!
- こんな企画があればいいなあという声もぜひ聞かせてください!



### 留学生向け学習支援 >>> 14 ページへ

- 日本語での会話を楽しくて練習する「SLA日本語会話」を開催しています。
- ライティング支援では、日本語文書の確認や相談もできます。
- 理系科目の質問もぜひ利用してください!



### 自主ゼミ支援 >>> 15 ページへ

- 大学生的学び方の一つである自主ゼミ活動を応援します!
- 放課後教室貸出や広報支援、自主ゼミ活動に関する相談に応じます。
- 友達2~3人の活動も立派な自主ゼミ! 気軽に“学びの輪”を広げませんか?



## サポート別利用案内 | 理系科目

関連ページ >>> P29~P34

### Point 1

#### 物理・数学・化学の担当別に窓口を開いています。

それぞれ関連する授業科目について、質問などを受け付けています。基本的に全学教育の範囲を扱いますが、その時々のSLAによって、専門分野の対応が可能なることもあります。授業でやったことがよくわからない、高校で履修していなかったからついていけない、などの不安質問から、もっと進んで勉強したいという意欲的な内容まで、ぜひ気軽に利用してください。

#### こんな授業の質問もOKです

- 自然科学総合実験
- 文系向けの授業 (ex.統計学など)

### Point 2

#### 皆さん自身の力が付くよう支援するのが目標です!

SLAは、ただ答えを教えるような場ではありません。皆さん自身の理解が深まり、また、「わかる」ための力が付くようサポートしていきます。SLAに質問する場合は、ぜひ次の3つを意識してみてください。

#### 質問する際は…

テキストや  
ノートを  
持ってくる



SLAが同じ授業を受けているとは限りません。質問にまつわる情報が多い方が役立ちます。

考えた  
ことを  
言葉にしよう



質問に来るまでに考えた過程を教えてください。SLAの説明がわかりにくい場合は遠慮なく言ってください。

一緒に  
考える・  
手を動かす



SLAはあくまでサポート。一緒に考えながら問題解決の糸口を探りましょう!

### Point 3

#### 具体的な質問だけでなく “学習相談”や“議論”等でも利用してください。

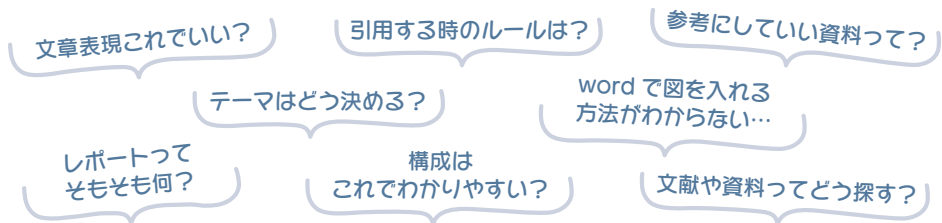
SLAの得意分野を活かした対応も

「どうやって勉強したらよいか不安」「専門の勉強ってどんな感じ?」といった学習相談や、先輩と議論してみたいというような利用、研究室選びの相談も歓迎です! ぜひお話ししましょう! また、SLAはそれぞれ専門の異なる学生が所属しています。工学系の話に強い人、教職を取っている人、プログラミングがわかる人など、SLAによって上記以外の質問にも対応できる場合があります。SLAの自己紹介をセンターに掲示していますので、それらも参考に利用してみてください!

Point 1

文章作成前・中・後、どの段階の質問でもOK!

大学で皆さんが挑むレポートや論文はアカデミック・ライティングと呼ばれ、「論理的な文章」を書くための様々な技術が必要になります。それには、文章を書き始める前の準備段階や一度書き終えた後の校正もとても大切。文章作成の際のあらゆる質問・相談に乗ります!



質問する際は...

課題の要件がわかる資料を持ってくる

課題の出され方によってレポートの中で書くべきことは変わってきます。

考えたことを言葉にしよう

文章に上手く書けないけれど、話をするうちに頭が整理されてくることは多々あります!

“添削”ではありません

文章は考える力と表裏一体。書き手自身の文章を大事にします。

自分では何ができていないのかわかりにくいのが“文章”。人に見てもらおうのはスキルアップのための大事なステップです!

Point 2

レポート以外の文章に関する相談もOK。留学生の日本語文章相談も受け付けます。

レジュメ、発表資料、応募書類、先生などに出すメールの書き方等の相談にも乗ります!

Point 3

レポートに関するゼミも開催!

『東北大学レポート指南書』に基づいて、大学でのレポートの書き方が学べるゼミを開催します。詳しくは、ポスターやHP等で確認してください!



Point 1

「カフェ」と「1on1」の2つの利用方法があります!

カフェ

みんなで楽しく話したい

- 参加者みんなで話します
- SLAが企画を用意しています
- 1回約1時間程度を予定
- 途中抜け、途中参加も可です



1on1

一人でじっくり練習したい

- 30分程度、マンツーマン形式
- ニーズに合わせて会話ができます
- 友達と一緒にの利用もOK!
- TOEFL等の練習にも!



OPENしている曜日・時間は学期によって異なるので、スケジュール確認を!

Point 2

英語が苦手な人もさらに英語力を伸ばしたい人も!

英会話は苦手という人も、留学を目指したい人も、留学後の英語力を維持したい人も、みんな大歓迎です! 就職しても進学しても英語を使う機会はたくさんあります。時間がある大学生のうちに、受験英語から“使える英語”にしておこう!

Point 3

留学生SLAも日本人SLAもいます!

SLAによって、発音練習が得意な人、海外経験が沢山ある人、英語の勉強方法をアドバイスできる人など少しずつ得意分野が異なります。色んなSLAの窓口を利用してみてね! ニーズに合ったSLAを紹介してほしい場合は、センター窓口まで!

## 学びの場は授業だけじゃない!

皆さんの大学での学びをもっと楽しく、そして、もっと深めてもらえるように、様々な学習イベントを定期的で開催しています!先輩学生たちが経験や研究から学んだ知識を発表したり、違う学部・学年の人たちと学びながら交流できる企画を実施しています。

たくさんの機会、たくさんの人に出会って、自分自身の学びを広げ深めるきっかけにしてください!

## 昨年度はこんな企画を実施しました!



「かんがえるソファ」

普段は何となく通り過ぎてしまう“当たり前”を、じっくり考えて話してみる対話型イベント。



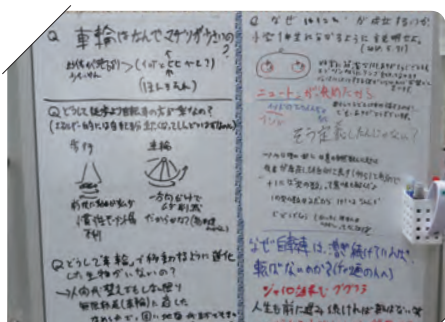
「美術館の楽しみ方、教えます!」

美術館に行き、学芸員の方と作品をじっくり見たり、展示の工夫について聞いたりしました。



CLS「学びの転換」セミナー

ゲスト講師を招き、“学び”を広げるセミナーを開催!昨年度のテーマは「AIからみた知識と学習」「インプロで学ぶコミュニケーションスキルと発想力」でした♪



チャレンジボード

参加型展示企画として、学生同士で出題・解答し合えるホワイトボードをSLAラウンジに設置。ひっそり盛り上がっています!

## Support 1

### 会話を練習したい人は「SLA日本語会話」

「SLA日本語会話」では、参加者同士の会話で自然に日本語でのコミュニケーション能力を高めていくのが狙いです。

各回、SLAがトークのテーマやゲームを用意しており、その中で、日常的な場面で使えるフレーズを学んだり、日本の習慣や文化を知ったりすることができます。

日本語を話す練習をたくさんしたい人、教科書に載っているような文章ではなく、カジュアルな日本語での会話に慣れたいと思う方は、ぜひ足を運んでみてください。



## Support 2

### 書くことをサポートする「ライティング支援」

自分が書いた日本語文章はうまく伝わるか、文法的に間違っていないか、不安に思ったことはありませんか?ライティング支援では、留学生のみなさんが書く日本語の文章の確認や、執筆のサポートをしています。授業のレポート、レジュメ、研究計画書など、大学での日本語文章なら、何でもOK!

また、ライティング支援では、文章を書き始める前の構想段階での相談も受け付けています。自分の考えがうまくまとまらないとき、何を書けばいいかわからないときにも、ぜひ気軽に利用してみてください。



## Support 3

### 理系科目に関わる相談も、SLAに!

「物理」「数学」「化学」など、理系科目の学習に際して分からないことがあった時も、ぜひSLAの窓口をご利用ください。対応にあたるSLAは、必ずしも皆が英会話が上手というわけではありませんが、できる限り努力します!詳しくは、10ページの理系科目の利用案内をご覧ください。

上記どのサポートに関しても、事前の予約は不要です。  
詳しい日時は、HPやポスター等で確認してください!



学生同士の学び合いグループのことを「自主ゼミ」と呼びます。みんなで難しい本を読み進めたり、議論したり…一人ではできない学びの深め方をしていけるのが自主ゼミ。大学ならではの学び方に、ぜひ積極的にチャレンジしてみてください!

## Main Support

### 活動場所をサポート!

活動にあたって大事なのが、活動場所の確保! 自主ゼミ登録をすると、放課後の教室も使えるようになります! SLAラウンジではホワイトボードの備品を貸し出しています。

#### A棟貸出教室

授業期間中 平日18:00~20:00

教室	収容人数	設備
A401	112(大)	黒・黒
A402	49(小)	黒・ホ
A403	49(小)	黒・ホ
A404	99(中)	黒・黒
A405	49(小)	黒・ホ
A406	99(中)	黒・黒

※黒=黒板、ホ=ホワイトボード

登録  
必須

#### SLAラウンジ

M棟開室時間中は  
いつでも利用可能

- ◎ホワイトボード用の備品を貸し出します。
- ◎プロジェクターが必要な場合も相談に応じます。

※ゼミスペース(ホワイトボード)の確保を保証するものではありません。

登録  
不要

### 「自主ゼミ登録」のススメ

登録  
手続き

10分程度

- ◎「ゼミ名、代表者名、連絡先」等の必要事項を登録
- ◎センターからの説明や、サポート内容等について相談

登録中

教室貸出しスケジュールや、自主ゼミ関連の情報などを登録されたアドレスへ配信します

## Customize

### 広報支援や活動にあたっての相談にも乗ります

興味はあるけれど、どんな風にやればいいのか? そんな人はまずはセンターへ! 過去の自主ゼミさんの事例などもご紹介できます。その他、仲間を集めたいという時の広報への協力など、皆さんのニーズに応じながらサポートできることを探していきます!

## 自主ゼミをやってみよう!!

### 仲間を集めよう!

★ゼミ員を募集したい場合は、センターでポスター掲示もできます!

自主ゼミは、まず何より一緒に学ぶ「仲間」を探すことから始まります。声をかけると、案外乗ってくれる人がいるのが東北大学のいいところ。また経験者に聞いてみると、「とりあえずやってみよう」と動き出すことが重要のよう。まずは「途中で止めてもいい!」というくらいの気軽さで始めてみましょう。

### 興味関心のあることを学ぼう!

★参考書選びの相談もぜひSLAに!

何を学ぶか…それはもちろん、自分たちの興味関心が一致するもの!ただし、自分たちの力量に見合ったものを選ぶのも大切です。難しすぎても簡単すぎても活動停滞の原因になってしまうかもしれません。最初に、先輩や先生からアドバイスを集めるのもいいかもしれません。

### 自主ゼミにもタイプはいろいろ!

#### 勉強会型(予習・復習型)

主に授業の予習復習をみんなで行うタイプ。大学の授業は、一度聞いただけでは理解しきれないものも多い。仲間と知識を補いながら学び合うことで、理解をより深く確実なものにしよう。

#### ★ポイント

授業を決め、発表の担当を決めておこう。復習の場合は、よく理解できたところと分からなかったところを明確にしておこう。

#### 読書会型

文献をみんなで読み込み、深く理解することが目的。文理問わず行われるが、文系はテキストの解釈が中心になり、理系は原理の理解を深めていくことが多い。

#### ★ポイント

何よりも、みんなで読み込むに値する本を選定することが大事。本を選んだら、章やページごとの発表担当を決めよう。担当者以外も目を通し、疑問を持っておくとより良い会に!

#### 討論会型

答えが一つに定まらない様々な話題に関して議論するタイプ。多様な意見・価値観に触れられ、自分の意見をアウトプットする練習にもなる。ただ話して終わりにならないよう、ある程度の準備や回し方の工夫をしよう。

#### ★ポイント

テーマ設定が成功の鍵。実施に際しては、議論を回すファシリテーター役を決めておこう。活発な議論のためには、意見を出しやすい雰囲気作りも大事。

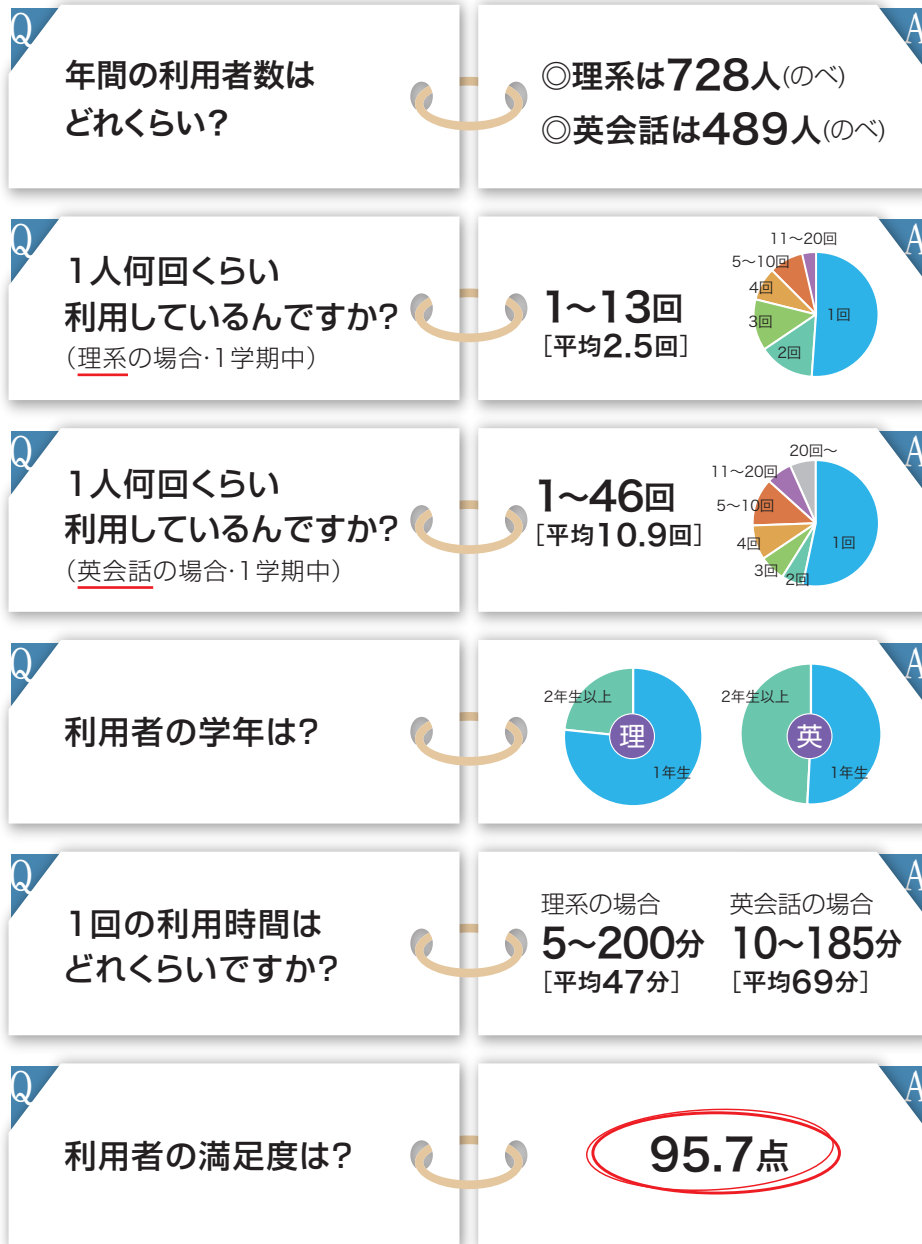
#### 外部企画参加型

官公庁や企業が学生からアイデア等を募集するプロジェクトは意外と多い(賞金や景品が出ることも)。選考が進むとプレゼン力など様々な力が試されるので、今まで培った様々な知識・能力を活用できるチャンスにもなる!

#### ★ポイント

自分たちの経験や専門を活かせるような応募プロジェクトを探そう。成果物は、ゼミ員以外の人にも広くアイデアや意見を求め、より良いものを作ってみよう。

## 昨年度の利用状況



※年間利用者数以外の数値は2018年度前期 Semester のものです。

## 利用学生の声

2018年度のアンケートから、SLAを利用した学生の感想を集めてみました。ぜひみなさんの利用の参考にしてみてください!



## 02

## 学びのコンテンツ

- ・大学での学び方のヒント
- ・SLA による学び NAVI

Contents  
of  
Learning

## 1年生におすすめする本

OECD 教育研究革新センター  
『学習の本質:研究の活用から実践へ』  
明石書店,2010年

大学には、学習のための機会や環境がたくさんあります。しかし、改めて「学習」そのものについて学ぶことのできる機会は、必ずしも多くありません。

この本は、そんな「学習」について網羅的に学ぶことのできる1冊です。この本を読めば、学習とは何か、どのように生じるのか、私たちにはどのような学習が必要か、そして、どのように学習すれば効果的かを教えてください。

(文・佐藤 智子/学習支援センター 副センター長)



# 大学の学びへ

## 高校と大学の学びの違いは？

大学での学びは、高校までの学びとは違うと言われますが、高校から大学への「学びの転換」って、つまりどういうことでしょうか？

大学では、**教科・科目型学習**と、**課題解決型学習**の2種類の学習をします。高校までは、教科・科目型学習が中心となっています。大学においても教科・科目型学習は必要ですが、高校と比べると、課題解決型学習がより重要となっていきます。

## 教科・科目型学習と課題解決学習の違い

	教科・科目型学習	課題解決型学習
学習のタイプ	教師主導型	学習者主導型 (自己決定型)
主な学習機会	授 業	一部の授業(基礎ゼミなど)、卒業論文 授業時間外に行う自主ゼミ ボランティア活動 プロジェクト型学習プログラム
学習の志向性	教科・科目の専門的な知識・ スキルの習得が中心	設定した課題の現状分析や 解決方策の提案が中心
学習への動機づけ	単位・学位、資格の取得 学問への知的好奇心など	他者や社会の役に立ちたい思い 問題解決への意欲など
中心的な学習資源	教科書、教師	学習者の経験、他者の存在
学習活動	教師による講義 課された文献の購読 実習・演習、テスト	プロジェクトによる活動 グループワーク、ディスカッション プレゼンテーション、レポート作成
学習の雰囲気	フォーマル、競争的	インフォーマル、支援的
学習者位置づけ	受動的・教師依存的	能動的・主体的
教師の位置づけ	教授者 学習到達度を評価	学習支援者 学習プロセスをコーディネート
知 識	体系的に習得される	状況依存的に構成される

## 大学での学びと研究とは？

皆さんがこれから大学での学習や研究に取り組む上では、それぞれに目標があるはずです。「社会に出て働くため」、「なりたい職業に就くため」、「自分の好奇心を満たすため」、「世界に出て活躍したい」など、きっと様々でしょう。

しかし、大学での学びと研究には、より大きな、社会的な意味があります。それが、次の2つです。

### (1) 大学は、新しい知を創造する場所です。

大学で学び、そして研究することを通して、新しい知、言い換えるなら最先端の知を創造していくことのできる場所です。高校から大学への「学びの転換」が必要なのも、そのためです。

新しい知を創り出していくためには、知識を単に暗記するのではなく、深く理解した上で、複眼的にそれを分析したり考察したりすることが大切です。

### (2) 大学は、最先端の知と社会をつなげる場所です。

大学での学びや研究として、純粋な知的好奇心に基づいて真理を探究することはとても大切なことです。しかし、それだけでは十分ではありません。大学は、多くの人々に支えられて存在しています。そして、あらゆる研究は、私たちの現在や未来に対して大きな影響を及ぼすことのできる可能性を秘めているのです。

大学での学びと研究は、深刻な社会問題や解決困難な課題を解決したり、人々が安心して豊かに暮らせる社会を実現することに寄与すべきものです。どれほど純粋な気持ちで創り出された知であっても、安易に使ってしまったら、使い方を間違えると、私たちの生命や生活に悪い影響を及ぼすこともあるということを忘れないでください。



## 誠実な学びと研究 —アカデミック・インテグリティ—

### 誠実な学びと研究

誠実に学び、研究することのできる倫理観、あるいはそのための意識や信念を、アカデミック・インテグリティ (Academic Integrity) と呼んでいます。これを、大学1年生の段階から身につけることが大切です。

### 誠実な学びと研究の基本となる6つの価値

#### Honesty (正直)

学習や研究の成果を偽らないこと。授業の内容が十分に理解できていない、思うような研究成果が出なかった等があっても、それに真摯に向き合う姿勢が大事です。

#### Fairness (公正)

単にルールを遵守すれば良いというだけでなく、合理性や透明性を大切に感じ、凛として学びや研究に向き合う美徳がなければなりません。

#### Responsibility (職責)

自分が行った判断や行動に対する責任を果たすことのできる能力が求められます。自分自身が不誠実な学びや研究に関わらないだけでなく、他者の不誠実な行為には、毅然と対応することが必要です。

#### Trust (信頼)

自由な議論やアイデアの発信ができるのは、相手が自分のアイデアを盗まないと信頼できるからです。相手の信頼を裏切る行為は、自分だけの問題でなく、学問や研究を妨げます。

#### Respect (敬意)

自分と異なる意見、共感できない価値観に対しても、それを理解し、多様な考え方に敬意を持つことが必要です。これにより、多様なアイデアを自分の学びや研究に活かすことができるようになるでしょう。

#### Courage (勇気)

勇気というのは、自分の信念に従い、強い意志をもって行動できることを意味しています。つい周囲に流されそうになっても、自分自身の頭でどうすべきかを考え、行動する勇気を持ってください。



詳しくは、東北大学 学習・研究倫理教材 Part 1 『あなたならどうする? — 誠実な学びと研究を考えるための事例集 —』を参照してみましょう!

### アカデミック・インテグリティを具体的に考える

次のようなケースをもとに、各ケースがなぜ「アカデミック・インテグリティ」に抵触する問題になるのか、そして、どのような行動や判断が「アカデミック・インテグリティ」に合うのかを考えてみましょう。

#### Case.A

大学1年生のあいだは、専門の授業がほとんどなく、全学教育の授業を受けなければならない。

とりあえず単位のためにと履修している授業で、課題レポートが出された。自分は理系なので、文系の内容だというだけで難しいのに、レポートを書けと言われても、どう書けばいいのかわからない。

そんな時、たまたまサークルの先輩から、去年同じ授業を受けたと聞いた。どうやらレポート課題もほとんど同じだったらしい。これはラッキーだ!先輩にレポートを見せてもらい、書き写せば楽勝だ!

**ポイント** 先輩が書いたレポートを書き写し、自分が書いたように見せかけて提出するのは、先輩のアイデアに対して敬意を払わず、担当教員や同じ授業の受講生全員に対して嘘をつくこととなります。また、自分に対しても、その課題に取り組めば知識やスキルが得られるはずだった機会を放棄してしまっています。「わからない」「できない」と表明して誰かに助けを求めるのには勇気が要りますが、その誠実な態度が、大学での学びにとっては大切です。

#### Case.B

いま履修している授業では、家族以外の身近な社会人にインタビューをしてくるようという課題が出された。身近な社会人と言われても、まわりは学生ばかりだ。仙台が地元じゃない自分にとっては、そんなことを頼める社会人なんて、まわりにいない。困った。

しかし、締切はもうあと1週間後に迫っている。どうしよう…。

そうだ!テレビや本の情報を参考にして創作すればよいじゃないか。これで、インタビューしたことにしてレポートを書いてしまおう!

**ポイント** 課題が解けない、どうしたらいいかわからない、このような時は、誰でも不安でつらい気持ちになります。しかし、そんな時こそ「正直」であることが大切です。授業の課題は、「提出する」ことが目的ではなく、その課題に取り組む中で皆さんそれぞれが学ぶ過程こそに目的があります。課題のことで困った場合には、まずは担当教員に相談するようにしましょう。また、レポートの書き方全般がわからない時などは、ぜひ学習支援センターのSLAに相談に来てください。

# 学び合いのススメ

## なぜ、「学び合い」なのか？

同じ学生同士で「学び合う」ことには、どのような意義や効果があるのでしょうか。ここでは、その代表的な側面を5つ紹介します。

### 1. 学びへのモチベーションや刺激が得られる

例えば、読破するのに何日もかかるような分厚く難解な専門書を一人で読もうとすると、相当に強い意志を持っていないければ途中で挫折してしまうでしょう。しかし一緒に読み進めていく仲間がいると、不思議とモチベーションを維持できるものです。また、友人が自分にはない発想をしたり、深い知識を蓄積しているのを垣間見たりすると、自分も頑張ろうと奮い立たせてくれます。ぜひ、刺激や触発を与えてくれる友人を数多く見つけてください。

### 2. 他者に学ぶ、他者から学ぶ

人は、一つの見方や考え方にとらわれるとなかなかそこから抜け出せないものです。しかし、他人の振る舞いは意外と冷静にモニタリングすることができます。例えば、文章や解答に初歩的なミスや論理的な飛躍があっても、自分ではなかなか気づくことができませんが、他者はいとも簡単にそれを指摘できたりします。つまり、人と学び合うことで、お互いを客観視でき、パフォーマンスを高め合うという効果が期待できます。同時に、他者の失敗やクセを知るという経験も、翻って自分の学習につながると言えるでしょう。

### 3. 自分の「分かったつもり」が明確になる

頭の中では「理解している」と思っていたことでも、他者にうまく説明できなかった経験はないでしょうか。あるいは、他者から素朴な疑問を投げかけられ、それに答えられないといったことを通じて、自分がいかに「分かったつもり」になっていたかだけだったか、気づかされた経験はないでしょうか。このように、ただ頭で考えているだけでなく、口に出して説明し、人に聞いてもらうことで、自分の理解や考えの甘い部分が明確になります。そしてそれは、理解や考えをより深化させていくためのチャンスになります。

### 4. アイデアや意見が創発する

他者と意見を出し合い、時間をかけて議論をするうちに、最終的に一人ではとても思いつかないような、独創的なアイデアの構築や解の発見へと至ることはよくあります。このように、協働によって個々の総和以上の成果が得られる現象は「創発」と呼ばれ、これも学び合いの大きな意義だと言えるでしょう。様々な研究の結果から、多様な知識や経験を持ったメンバーが集まり、対等な雰囲気の中で活発に議論し合うことが、この創発を導きやすいことが知られています。

### 5. 能動的・批判的な学習者としての態度が身につく

大学での学びは、ただ受身的に授業を聞き、多くの知識を得るだけではほとんど意味がありません。支配的な見方を疑ったり、知識を柔軟に組み合わせたりしながら、新しい知を生み出していくことがより重要になります。そこにおいて、対等な立場から意見を言い合える仲間との学び合いの場はとても貴重です。なぜなら、授業や日常の中で感じたこと、考えたことをもとに議論し合うという経験を重ねることで、能動的な学習者としての態度や、批判的思考のスキルは飛躍的に鍛えられるからです。

## 「学び合い」の流れ

「学び合い」はとても効果的ですが、しかし学生の皆さんがただ集まただけで効果的な学び合いができるわけではありません。より良い学び合いを実現するためには、次のような点が大切です。



## 「学び合い」で大切なこと

話しやすい  
場づくり

みんなが積極的に参加できるようにするには、話しやすい環境が必須。そのために、アイスブレイクを効果的に実施するとともに、グランド・ルールをきちんと共有しましょう。そうすることで「学び合い」が楽しくなり、新しいアイデアや最適な判断答えが見つかるはずですよ。

グランド・ルール  
の設定

「グランド・ルール」とは、例えば「相手を否定しない」、「話を途中で遮らず最後まで聴く」など、すべての「学び合い」に必要な基本的な決まり事のことです。話しやすい雰囲気づくりのためにも、有意義な議論や対話をするためにも、はじめに参加者全員で決めましょう。

目的・目標  
の共有

どんなに話しやすい雰囲気であっても、みんながバラバラの方向で議論していたら、意味がありません。みんなが同じ方向を見るために、「学び合い」の目的と目標を明確にし、それを終始みんながしっかりと意識することで、効果的な学びを生んでくれます。

### ●社会の中での「学び合い」 サービスラーニング

学生同士にとどまらず、大学の外の人々(地域住民の人、社会で働いている人など)とも学び合う究極の「学び合い」授業が、「サービスラーニング」です。

サービスラーニングの中心概念は「互恵性」と「ふり返し」。授業で学んだ専門や教養の内容と関連づけ、ボランティア活動などの経験を通して深い理解へとつなげます。

サービスラーニングの「サービス」とは、ふだん私たちがイメージするような接客サービスという意味ではなく、地域や社会のために、あるいは目の前の他者のために行うボランティア活動全般を意味しています。教室の中で、同級生と学ぶ通常の授業と比べて、知識理解が深まるだけでなく、自立性や協調性、責任感やストレス耐性などの非認知的な能力が高まり、社会貢献意識などの市民性(シティズンシップ)が向上するとも言われています。ただし、サービスラーニングの授業は必ずしも多くはないので、興味をひかれるものがあれば逃さず積極的に参加してみましょう。

# 「ファシリテーション」を意識しよう

## 対話の中で学び合うための技法

### 👉 ファシリテーション (状況に応じて場を調整する)

ファシリテーション(Facilitation)とは、「促すこと・円滑にすること・容易にすること」という意味。学び合いの場では、ファシリテーションの機能がとても重要です。

状況に応じて意見やアイデアを引き出したり、話の流れを組み替える役割を担うのが「ファシリテーター」です。ファシリテーターは、学び合いのプロセスを円滑にする役割を担います。

ファシリテーターは、参加者全員が話しやすい雰囲気づくりをします。例えば、ファシリテーターが、一切笑わず怖い顔をしていたり、威圧的な態度をとったりするような人だったらどうでしょう？やる気を感じられない態度だったら？まずは、意識的に参加者に話しかけ、穏やかでこやかな雰囲気をつくるのが大切です。

### 👉 ファシリテーション・グラフィック (話の「見える化」)

みんなが積極的に参加して意見やアイデアを出し合うには、議論の内容や流れを全員で共有することが大切です。「そんなのみんなできているはずだ」と思うかもしれません。しかし、前提知識の違いなどが影響し、必ずしも話の内容や流れを同じように理解しているとは限らないものなのです。

そこで、ホワイトボードや黒板、少人数であれば大きめの紙に書き出すなどして、全員の理解の程度やスピードを揃えることを心がけてみましょう。ファシリテーターを中心に、話を「見える化」して全員で共有することが大切です。

### 👉 アイスブレイク (場の雰囲気をつくる)

アイスブレイクとは、凍りついた雰囲気(ICE)を壊す(BREAK)ことです。

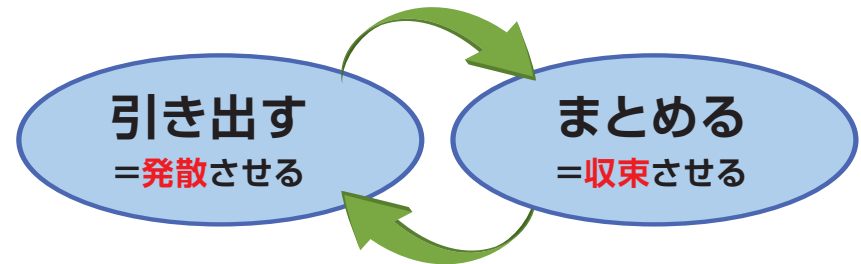
ミーティングやワークショップなどを始める際、参加者が初対面同士だったり、誰かが眠そうな雰囲気を出していたりすると、どうでしょうか？ せっかくの学びの場でも、なかなか前向きな気持ちになれないはず。また、その場に集まったけれど、すぐには思考がうまく働かないこともあるでしょう。

そこで、参加者が集まったら、最初に簡単なゲームをしたり、誰もが話しやすいテーマで自己紹介をしたりして、参加者同士の堅い雰囲気をほぐし、話しやすい雰囲気をつくれます。



## ファシリテーションの2つの役割

ファシリテーションのなかでは、参加者の意見やアイデアを「引き出す」と「まとめる」のを細かく繰り返します。



## ファシリテーション・グラフィック (板書) の方法

### ◆ 発言を要約して描く

- 要約するときには、発言者が実際に用いた表現をできる限り使う
- 勝手な解釈はしない(意識する場合には発言者に確認する)
- 一般化・名詞化しない(例：○やる気が持てない、×やる気の問題)
- 重要なキーワードは落とさず! (描くのが間に合わない時は待ってもらう)
- 仮名、略語、記号を上手に活用する(ひらがな・カタカナを使ってもOK)
- ことばで表現しにくい場合は、イメージ図なども取り入れる

### ◆ 要点(ポイント)を強調する

- 文字の大きさ、色、文字飾り、記号、囲み、イラストを活用する

## アイスブレイクに使えるゲームの例

### 1. 「嘘はどれだ?」自己紹介

自己紹介の内容を3つ箇条書きにする。その中に1つだけ嘘をまぜて、他の参加者に当ててもらおうゲーム。質疑応答の時間を設けてもよい。



### 2. 「私の理想の○○」プレゼンテーション・ゲーム

「私の理想の○○」というテーマで、参加者ひとりひとりが1~2分程度のプレゼンテーションを行う。「○○」については、「仕事」「大学生活」「旅行」「老後」など、参加者それぞれに考えてもらう。

### 3. 「いまの私を表す漢字1文字」ゲーム

参加者に、いまの(今日の)気分や状態などを表す漢字1文字を紙に書いてもらい、その字を選んだ理由とともに、他の参加者に発表してもらう。

## 物理の学び

NAVI

質問が多い分野は…

- 1位: 振動／質点の力学  
(例えば、減衰振動、強制振動、単振り子など)
- 2位: 運動の概念と諸原則／質点の力学  
(例えば、力学的エネルギー保存則など)
- 3位: 剛体の平面運動／質点系の力学  
(例えば、剛体の平面内での回転など)

こんな「？」が多いです!

- 問題の示している状況・式のイメージがわからない。
- 式変形が追えない。
- どの公式を使ったらよいかわからない。

## 大学物理の押さえドコロ!

## ● イメージ(現象)を大切に。

物理は、数学という言葉を使って自然現象を紐解く学問。つまり最終目標は、「自然現象を説明すること」。だからこそ、数式を追いながら、そこで何が起きているかを想像することが大切! 計算と共に「絵や図に書いてみる」一手間を加えたり、インターネットで分かりやすい画像や動画を調べてみるのも勉強の助けになる。

## ● 文章を読むだけでなく、手を動かして“納得”しよう。

大学物理ではしっかり計算に基づいて現象を理解することもとても大事。教科書の文章や先生の言ったことだけでわかった気にならず、しっかりと自分で式変形等を追ってみよう。実はわかったつもりでわかっていなかった場所が明らかになったり、計算を通して物理的なイメージがより鮮明になることも。

## ● 必要な数学的ツールは“使える”状態にしておく。

物理では、現象を理解するために数式を解くことが重要なステップの一つ。そのため、細かい数式の証明などに囚われず、まず物理数学を公式として「使える」ようになることも大切。物理では物理に専念して、数学的に厳密な議論や理解は後で数学の授業でじっくり勉強する、という優先順位の付け方も必要かも。

## ● 分かりにくい時は“極端な場合”を考えよう。

その式や文字の意味を考えたり、現象をイメージしようとしても、パツとは難しいものもある。そんな時は、「無限大( $\infty$ )にしたらどうか?」「0にしたらどうか?」など、極端な例で思考実験してみると、イメージが付きやすくなることも多い。

SLAに  
聞いた

## 物理のココが面白い!!



少ない法則で様々な現象を説明できることが面白いです。例えば、運動方程式一つで力学の様々な現象を説明できるのが興味深いです。単振動の式や剛体の運動も同じ『運動方程式』が基本ですし、単振動は量子力学の話(調和振動子)にも繋がっています。(大野)

素粒子を研究すると、宇宙が分かるかもって話が面白いですね。それを通して、『宇宙がどのように創られ、これからどうなるか』といった、昔は神話などで説明されていたことに迫ることができるのがわくわくする。(川田)

稀代の天才の発想や頭の中をその人が構築した理論を追うことで、追体験できることが面白く感じます。(高根)

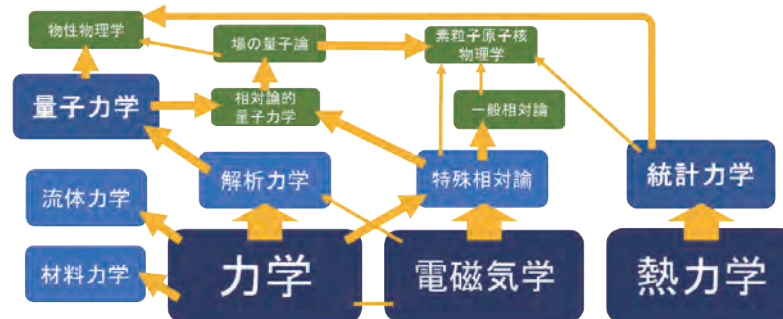
一見違う現象が一つの物理法則で説明できることが面白いです。例えば、光の法則(フェルマーの原理とホイヘンスの原理)と物体の運動(最小作用の原理と経路積分法)には類似点があります。(名古屋)

単純な想像では推し量れない摩訶不思議な現象がたくさんあること。それを解き明かしてもまたさらに不思議なことがあること。言ってみれば頭を柔らかくするクイズをやっているようなものだと思います。(野本)

## 物理学領域の横断的つながり

物理で学習する領域間の関連性の強さを矢印で示しています。

力学、電磁気学は他分野の基礎となり、特に重要度が高いことが分かります。また矢印でつながっている科目を勉強していくなかで、その歴史を感じるという楽しみ方もあります。





## 数学の学び

NAVI

質問が多い分野は…

- 1位:数列・級数／微分積分学  
 2位:関数の極限・連続性／微分積分学  
 3位:多変数関数の積分／微分積分学  
 4位:対角化・ジョルダン標準形／  
 線形代数学

こんな「？」が多いです!

- 高校数学と大学数学が違い過ぎる…
- この問題、何を要求しているの?
- 教科書が読み解けない(行間が埋められない)

## 大学数学の押さえドコロ!

## ● 何はともあれ、定義に立ち戻ろう。

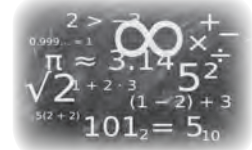
「『押さえドコロ』と言われたら、これに尽きる!」との回答多数。質問対応の中でも、まずは定義を確認するところから始めることはとても多い。大学数学は論理が大事。そのためには用語がそれぞれ何を示しているのか、一つ一つ丁寧に押さえていくことが重要だ。定義を確認する習慣を身につければ、数学の力がしっかり身についていくはず!

## ● 議論全体の流れを意識しよう。

一つの定理の証明の中に、細かい議論が高校よりもはるかに多く登場する。それを一つ一つフォローすることや、上で触れたような用語の定義を理解することも必要だが、それだけでは不十分。それらの繋がりや、証明全体の流れを理解しないと、結局何をしているのかわからなくなってしまう。個々の議論の“木”も大切だけれど、全体として何をしているのかの“森”への意識も持って取り組もう!

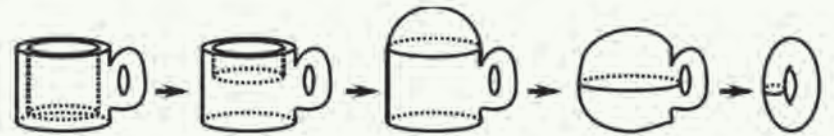
## ● “数学特有の言葉遣い”に慣れよう。

高校の頃は少ししか触れない「論理と集合」の単元。そこで出てくる必要条件や十分条件といった言葉、「〇〇ならば××」といった文章は大学数学すべての分野で非常によく使われる。さらに、「任意の□□に対して…」 「ある△△が存在して…」といった大学数学独特の言い回しの登場により、教科書に書かれている内容の意味がつかみにくくなっている。まずはこういった数学特有の議論や言い回しに慣れるようにしよう!

SLAに  
聞いた数学の  
ココが面白い!!

私は、トポロジーと呼ばれる領域に属する数学の研究を行っています。トポロジーとは、一言で述べると「空間を柔らかく見る幾何学」です。もう少し詳しく説明します。

2つのものX、Yについて、「Xをぐにゃぐにゃ変形させてYと同じものができる」とき $X=Y$ と定めます。例えば、下図のようにXをコーヒーカップ、Yをドーナツとすると、次のように「ぐにゃぐにゃ変形させる」ことで $X=Y$ であることが分かります。トポロジーとはこの“=”により空間を同一視し、空間の「つながり度」を調べる数学です。(上の“=”を数学では「位相同型である」といいます。)



では、Xをコーヒーカップ、Yをボールとします。このとき $X=Y$ でしょうか? $X\neq Y$ でしょうか? 答えは $X\neq Y$ です。このことは、コーヒーカップには取っ手に穴が開いていて、ボールにはどこにも穴が開いていないことから、数学的に説明することが出来ます。

上の「数学的な説明」は、皆さんが大学で学ぶ線形代数の理論を土台として行われます。「空間の穴の数」は、線形代数を用いて定義される、空間を区別する道具の一例となっています。このような道具を「不変量」と呼びます。興味が沸いた方は瀬山士郎「トポロジー:柔らかい幾何学」などを手に取ってみて下さい。

(浅野)

+α

## 「行間」を理解して読む習慣をつけよう

大学の教科書は、高校の教科書に比べて「行間」が広く(=議論が省略されていて)、演習問題に略解しか付いていないことも少なくありません。数学の学習においては、それらをそのままスルーせずに、自分なりに手を動かしたり調べたりしながら、しっかり理解して読むことがとても大切です。

また、分からないことを1人でじっくり考えることはもちろん重要ですが、他の人に質問するのも同じくらい大切なスキルです。ぜひ積極的に友達、先輩、あるいはSLAに聞いてみてください!



## 化学の学び

NAVI

質問が多い分野は…

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1位:量子力学の基礎／量子化学 | } 前期 |
| 2位:分子軌道法／量子化学   |      |
| 1位:分子の性質／有機化学   | } 後期 |
| 2位:反応機構／有機化学    |      |

こんな「？」が多いです!

- (テスト前に)あれ? 最初からわからない…
- 物理が苦手がよく分かりません
- イメージがつかえません

## 大学化学の押さえどころ!

## 化学A(量子化学):いったん飲み込んで先に進もう。

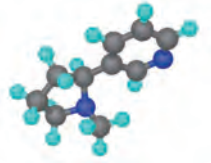
化学と言えば「化学Aの洗礼」。「化学って物理だったのか!?!」と戸惑う新1年生の姿は、毎年恒例である。それもそのはず、化学Aは量子力学が基盤となっている分野。量子力学は「感覚」とはかけ離れた一面もあって、なかなか「腑に落ちた!」という感覚を得ることが難しい。しかし安心してほしい。量子化学は全ての化学の土台になっていて、色々な分野を勉強するにつれてそれらが繋がって理解が進んでいくはずだ。ここでは基本的な考え方や概念について、完全には「分かった」と思えなかったとしても、いったん「そういうことなんだ」と認めて、先に進んでみよう。

## 化学B(熱化学):演習量が肝。問題を解いて慣れよう。

パターンが無数に存在する熱化学。「この場合はこれ」と単純に理解できるものではないため、多くの演習問題をこなすことが、大変なようで最も近道かもしれない。化学Bはわかることから手をつけていくこともできる分野なので、やりやすいところからチャレンジ!

## 化学C(有機化学):最低限の知識がベース。

有機化学は膨大な量の化合物が登場する。問題や授業を理解しやすくするためにも、まずは化合物の命名法・判別法や官能基の名前など最低限の暗記をしよう。また、数式を直接扱わない分、分子や原子の「性質」をもとに、定性的に考えることが大切。といっても、分子構造を頭でイメージするのはなかなか難しい、そんな時は「分子模型」を利用して実際の構造の変化を見てもおススメ。

SLAに  
聞いた化学の  
ココが面白い!!

私たち人間を含む生物の体も、もはや手放すことができないまで普及したパソコンやスマートフォンも、普段の生活で触れるありとあらゆる物質は、実は100種類程度の「原子」と呼ばれる粒子でできています。

化学は、原子や分子の中の『電子』と呼ばれる非常に小さな粒子の動きに注目して、これら原子や分子の性質や様々な理論を紐解いていく学問です。「どんな原子が、どのように集まって分子を構成しているか」、あるいは「それら分子同士がどのように相互作用し合っているのか」、たったこれだけのことでその分子が持つ固有の機能は多種多様な興味深いものになっています。植物が光合成をすることができたり、あるいは動物が体を自由に動かすことができることも、その裏では化学が暗躍していて、絶妙にその機能を発現・制御しているというわけです。

地球上には約870万種の生物が存在していると言われていますが、これら生物の個体差はそれぞれ異なった機能を持つ生体分子によって達成されていると考え、これは化学がこれだけの多様性を生み出すことができるということの裏返しでもあると解釈することができます。つまり、**複雑で多種多様な機能性分子を作りたかったら、そもそも複雑な機能を持つ多種多様な生体分子を真似れば良いわけ**です。(ちなみにこのように生物を真似る手法はBiomimeticsと呼ばれていて、化学だけでなく物理の世界でも出てきます)

これらの考えを胸に、研究室に配属されてからは、**生体分子の構造を模倣した機能性人工分子の作成**を目標として研究を進めてきました。化学では他の学問にはない、**最小の世界でのモノづくり**ができます。一緒にこの世界で面白い機能を持つ物質を創造しませんか? (三上)

+α

(どちらかというと)

計算よりイメージ重視

But

わかったつもりに要注意

マクロな世界を扱う化学では、物理が現象を数式で理解する事を重視するのに比べると、数式よりイメージを掴むことの方が大事な場面が多くあります。そのため化学の教科書には式やグラフだけではなくイメージ図もままたり、少しわかりやすい感じがしてきます。

しかしそこが要注意!**「見てわかる」ことと「自分で書ける(再現・応用できる)」ことは異なります。**電子の流れを表す矢印にしても、いざ問題を解こうと思って取り組んでみると、意外と「あれ?」と思うことがあるはず…!

テスト直前にわからなさに気づくことの多い化学(特に化学Cの質問はテスト直前に混雑します)。化学では授業で覚えたことを応用して考えることも重要なので、ぜひ**早めに問題に手をつけてみて、自分が何をどこまで理解しているのかを確かめてみよう!**

# ライティングの学び

NAVY

ここでいうライティングは「アカデミック・ライティング」と言われるもの。「研究」や「論文」に必要とされる「論理性」を重視した書き方のことを指しています。「書き方」は思考の仕方のスキルに通ずるもの。1年生のうちから意識してスキルアップを目指していこう!

## こんな「？」が多いです!

- レポートってそもそもどう書いたらいいんですか?
- 一通り書いてみたので、これでいいのか読んで欲しいです
- 自分なりの問いや主張が思い浮かばないんですけど…
- 「引用」の仕方が分かりません

## アカデミックライティングの押さえてココ!

### 文章の「構造」を意識。

レポートや論文などの論理的な文章には「構造」があり、多くは【序論・本論・結論】という3層構造になっている。「序論」では、与えられたテーマに関する問いを示し、「結論」では、自分の主張や意見を述べる。「本論」は、「結論」の主張を支える根拠を具体的に展開する部分。「結論」での主張は、「序論」での問いに対応する答えになっていることが、重要なポイント。

### 「問い」の設定が鍵。

1・2年生のうちは、授業で「～について論じなさい」という大きなテーマが与えられることが多い。しかし「～について」という形のままで「問い」とは呼べない。「問い」はもっと具体的な切り口から絞り込んだ、答えを提示できるサイズのものであるべきである。いろいろな「問い」を思いついて迷っている人や、そもそもどうしたらいいかわからない人もいだろう。そんなときは、「ブレインストーミング」や「マインドマップ」、「ピリヤード法」と呼ばれる方法などを用いると、思考の整理して問いを生み出すことができる。詳しくは、ぜひSLAに相談に来てほしい。

### 正しく「引用」しよう。

引用とは、既存の文献の文章を「引いて」、その文章や内容を「用いる」こと。引用をすることで、自分の主張を補強することができる。でも、正しく引用しないと、「剽窃」になってしまうこともある。「剽窃」とは、他人の文章を自分の文章であるかのように発表すること(つまりは「パクリ」)で、極めて悪質な行為である。悪気がなくとも、正しく引用しないと「剽窃」とみなされてしまうので、注意が必要だ。正しい引用の要件は、自分の文章と引用する文章を明確に区分すること、出所を明示することである。

SLAに聞いた

## ライティングのココが面白い!!



日本には義務教育の課程で読書感想文を書かせる風潮があるが、果たして皆さんは読書感想文が得意な子どもだったのだろうか。読書が好きだからその感想を綴ることも得意で、入賞の常連であり、友達や兄弟の分まで頼まれて書いていた?あるいは大嫌い、大の苦手で、読書感想文の課題が出るだけで長期休みが死ぬほど憂鬱だった?

いわゆるアカデミック・ライティング(以下「ライティング」とする)は、読書感想文とは全く異なる。つまり、**読書感想文が得意かどうかとは無関係**。これがライティングの面白さである。読書感想文が苦手であるために、文章を書くこと自体が苦手だと思っているとしたら、それはひどく勿体ないし、大きな間違いだ。「本を読んで感じたことを書く」という極めて主観的な作業が要求される読書感想文とは異なり、ライティングは、「他者を論理で説得する」という極めて客観的な作業を要求するのである。

だから安心して、一から学ぼう。**ライティングには型があり、型を学べば誰でも書ける**。左頁で説明している序論・本論・結論という大枠や、もっと具体的な論理の展開の仕方の型のことである。

レポートを書く目的は読者を説得することだが、そのためには論理が飛躍しないよう、丁寧に説明することが必要である。自分で分かればいい私的なメモや日記等とは驚くほど頭の使い方が違い、自分で了承していることを他者に伝えるという手続きには、特殊な工夫、作法が要る。そこで型が手助けをしてくれる。型は自分で自分を導く道標である。人を説得するには何をどの順番で書けばよいという型があれば、書くべきことが自ずと決まってくる。アイデアを出すことや感想等を自由に述べることに苦手意識がある人も、型という**外側から攻めて**いけば、レポート書きも、意外と機械的で単純な作業に分割されていく。

定型というものは一見我々を束縛するように思える。しかし、**定型の中でこそ自由になれる**という逆説が存在する。その典型は例えば短歌や俳句だが、文字数やその句切り、俳句の場合は季語といった規則があるからこそ、情緒の大らかな表現や心を打つ描写が可能になる。

PCで文章を作成するという点も、最初は戸惑うかもしれない。高校までは基本的に、穴埋めプリントや解答用紙、原稿用紙などが配布され、皆さんは基本的に、これらの予め綺麗に用意されたフォーマットに書き込むだけだったと思う。大学でのライティングは、皆さんがWordを開き、「白紙の文書」を新規作成する。何もフォーマットが与えられないからこそ、型を知っていなければ恥ずかしい思いをする。上述した**内容面**はもちろん、参考文献の明示の仕方や、レポート全体のレイアウト、デザインといった、**形式面**も然りである。

ちなみに、感想文等を書くのが得意な人は、それを生かして更なるスキルアップを目指せるだろう。ライティングには型があるものの、特に問いを設定する段階では、収集した文献を読んだの純粋な感覚——**気づきや驚き、共感や同意、反発や違和感や嫌悪感や、「なんか腑に落ちない」というわからなさ**でもいい——を大事にすると上手くいく。感想文等が得意な人は、元々こうした様々な感覚の価値を肌で知っていて、それを素材として利用する才能を持っているから、その点で既にアドバンテージがあるのだ。

最後に、ライティングの定型の海で自由に泳ぐにあたって、何か困ったことやわからないことがあったら、いつでも気軽にSLAの窓口を訪問してほしい。締切に追われる学期末のみならず、セメスター序盤や中盤の段階からSLAを利用し、リピーターになるのも効果的だ。いつの間にか文章=苦という認識がなくなり、**ライティングが楽しく**なれば幸いである。(玉田)

## 英会話の学び

NAVY

受験終了後が一番英語力があつた…なんてことにならないように、受験で鍛えた英語力を、「使える英語」に転換していこう!学内には英語に触れられる機会が様々あります。SLA英会話もぜひ上手に活用してください!

### こんなSLAの利用が多いです!

- 英語に自信がない…けど上手になりたい!
- 留学生と英語でコミュニケーションしたい!
- 留学のための準備をしたい!

### 英会話上達の押さえどころ!

#### 何はともあれ「**継続**」が命!

「それはわかっている」と思う人も多いはず。そう、わかっているけど難しいのが「継続」だ。英会話上達のためには、英語の学習法というより「自分が何なら継続しやすいのか」という自己特性を把握することが大事かもしれない。ちなみに、SLAの中では、映画やドラマを見るという人が多い。一度日本語でストーリーを把握した後、「英語音声+英語字幕」「英語音声+字幕なし」で見ると効果的だとか。色々な人の学習法を聞き、自分にフィットするやり方を探してみよう!

#### 間違っても**良い**から話す(言葉を出す)!

これもまたよく耳にするアドバイスかもしれない。それでもやはりSLAを利用してくれる学生さんの様子を見てみると、「ゆっくり考えて、頭の中で整理してから話す」という光景はよくある。もちろん、初めのうちはこれでも良いが、留学を目指していたり、会話の上達を目指す場合は、「とにかく言葉を出す」ということが大事。会話は「相手」がいるものだから、うまく会話のキャッチボールができるようになる。

#### 具体的な**目標**を持つ

SLA自身の経験や、利用学生さんの話を聞いていると、具体的な目標を持たた人は上達が早い。「3年次に交換留学に行く」「TOEFL〇点」といったことでもいいし、「留学生の友達ともっと会話したい」「親戚の友達(外国人)が仙台に来るから、英語で案内できるようにになりたい」(ともに実例)というのもアリだ。

SLAに  
聞いた

## 英語のココが面白い!!



高校の授業やセンター試験では国数理社英、と並べられていた英語。しかし英語には他の教科との決定的な違いがあるのです!その違いとは何なのでしょう? それは「**英語は道具である**」ということです。一部の専攻の人を除いて、英語は学問というより人とコミュニケーションを取るための道具でしかなく、逆にそこが英語の最大の魅力なのです。

ある統計によると、母語話者・第二言語話者・言語習得者すべて合わせると**英語話者は15億人**もいると言われていています(二位の中国語は11億人)。しかも多くの英語以外が母語の国でも通じる言語なので、英語を使いこなせると一気に世界が広がるんです!こんな効率的な言語は他に中々ありませんよね!

そうはいつでも英語だって勉強しないと身につかないじゃん! と思ったあなた! まさにその通りだと思います。そこで英語の勉強が楽しくなる(かもしれない)コツを紹介します。実は英語、特に英会話は自分の成長が分かりやすい分野なんです。というのも、英会話では基本的に自分が知っている単語や言い回しを使って話すしかないので、セッション中に出てきた単語を繰り返し使ってみたり、周りの人を真似したりすれば「今日はこの単語が使えた!」という達成感を味わえるからです。たった一つの単語でも、たった10分のセッションでも振り返ってみると自分の成長が実感できるはず。このように**自分の成長に気づく**ことが英語を楽しく続けるコツなのではないかな、と思います。

最初に書いたように、英語は道具です。どこまで上達させたい、何に英語を使いたい、という目的は人それぞれだと思います。SLAと一緒に英語を使いこなして、世界を広げていきましょう!  
(水野)

SLA英会話カフェは、あらゆる学年・学部の方々が集まり、毎回様々なトピックについて英語で話します。レベルの高い人ばかりが集まるという噂もありますが、実際はそんなことは全くなく、**初心者もたくさん**来て来てくれています。我々SLAも参加者全員が会話に入れるような工夫を施しています。周りに一緒に英語を勉強する仲間や留学を希望する仲間がいない方!もしかしたらSLA英会話カフェは、英語を勉強できる場だけではなく、**自らのコミュニティを広げる場**としても利用できるかもしれません! ぜひお気軽に覗いてみて下さい!

+α

英語担当SLAおすすめ英語学習法の中から一部をピックアップ!

writing

日記を始めてみよう。最初は1日3sentencesから! わからない単語は日本語を使ってよいので「文章」を書いてみるべし!

reading

「The Japan Times ST」などNewsを活用するとお手軽。また、専門分野に関わる英語の文献や論文を読む習慣をつけると、一石二鳥!

listening

「TED」や「NHK newsで英語術」などはおすすめの無料サイト。日常会話には、欧米のドラマや映画を英語字幕で見ると有効です!

speaking

学内にも沢山機会があるので活用しよう! 一人でできる事としては「独り言」もおススメ。「下校時間中」など時間制限を設けると◎!



# 学び方の学び

By 企画SLA

NAVY

『大学の学びって、どうすればいいの??』  
そんな疑問にお答えするために、SLAがいろんな  
学びの形を提案します!!

新しい知識を増やす学びから、自分のアイデアを  
表現して思考を深める学びまで、座学だけではな  
い様々な学びを実践してみましょう!

## Input

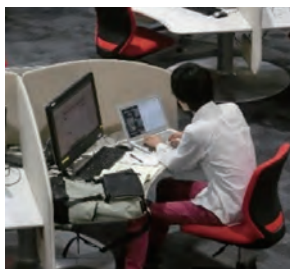
### ① 本を活用する —大学の図書館はすごい!—

大学の**附属図書館**の蔵書数は、高校までとはケタ  
違い。書庫や各キャンパスの**分館**には専門書が充  
実しており、専門科目の調べものに欠かせません。  
**キャンパス間資料搬送サービス**を利用すれば、他  
キャンパスや他大学の蔵書も閲覧できます。また、  
**学生選書**のコーナーや定期的**に実施される企画展**  
も魅力的。年度初めに実施される**図書館ガイダ  
ンス**に参加して、付属図書館の使い方を学んでみま  
しょう。**メディアテーク**などの公共図書館に足を運  
んでみるのもいいですね。



### ② ネットの力、どう借りる?

インターネットは「知の宝庫」。まだ書籍化されてい  
ない最新情報が手に入るなど、その活用方法は無  
限大です。  
ただし、ネットには嘘の情報も多く転がっています。  
疑う姿勢を常にもち、**信ぴょう性**の高い情報を見極  
めることが大切です。**メディアリテラシー**について  
扱う図書館主催の講習会もあるので、正しい知識  
を身につけた上でネットを活用しましょう。



問いを  
立てる

思考を  
広げる  
深める

番外編

### 相談する

大学の学習には悩みがつきもの。でも大丈夫! **学習支援セン  
ターのSLA**や**付属図書館のレファレンスサービス**など、学内  
には皆さんの学びをサポートするシステムが整っています。  
「この問題分らない…」  
「勉強方法ってこれでいいのかな…」  
こんな時は、勇気を出して先生や先輩に相談してみましょう!



## Output

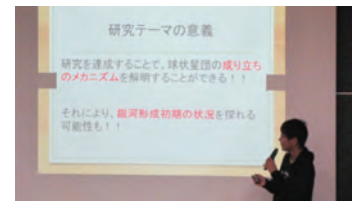
### ③ ライティング



書くことには、学んだことや自分の思考を記録するだけで  
なく、頭の中の考えを整理する動きもあります。文字だけ  
でなく図表も使って、自分の中で膨らむアイデアをスッ  
キリさせましょう。  
筋の通った文章を書くのは案外難しいもの。**レポート指  
南書入門ゼミ**や**カレントピックス科目「大学生のレポ  
ート作成入門」**などの機会を活かして、ライティングの基礎を  
しっかり押さえておくのが大切です。また、**学習支援セン  
ター**ではSLAによる**ライティング支援**も行っています。気  
軽に相談してみましょう。

### ④ プレゼンテーション

プレゼンテーションは、自分の調べたことや考えたことを  
他者に伝え、理解してもらうために必要不可欠な手段の  
一つです。学年が上がると**卒論発表**や**学会発表**など、**プ  
レゼンテーション**をする機会が増えます。  
社会人になってからも求められるスキルでもあるので、  
良いプレゼンテーションを見て勉強しておくのがおススメです。特に、ネット配信されている**TED**  
は印象的なパフォーマンスの宝庫。**基礎ゼミ発表会**などで実際にプレゼンテーションに挑戦する  
のもおススメです!



## Share

### ⑤ ディスカッション&ダイアログ

**ディスカッション**(議論)はあるテーマに  
基づいて意見を交わし合い、より良い  
結論に向けたやり取りを行う場です。これ  
に対して**ダイアログ**(対話)は、相  
手の声にしっかりと耳を傾け、多様な価値  
観や考え方を理解するもの。後者は高  
校まではあまり馴染みが無いかもしれ  
ませんが、自分に足りなかった知識  
や視点が見えてきて面白いですよ。



得た知識を周りと共有することも学び  
の大切な要素。他者との**コミュニケ  
ーション能力**は、**就活**で求められる力  
でもあります。**かんがえるソファ**などの  
ワークショップや**自主ゼミ**に参加した  
り、お茶を飲みながら友人同士で話し  
たりしてトレーニングしてみましょう。

## 03

# あなたも未来のSLA!?

## ～学習支援センターの裏側紹介

about  
SLA

### 1年生におすすめする本

ケリー・マクゴニガル  
『スタンフォードの自分を変える教室』  
大和書房,2012年



大学では、知識だけでなく人生のあり方についても、主体的に学んでいく姿勢が求められています。新入生の皆さんはきっといろんな挑戦を試みたい、一番やる気が満ちている時のはずです。しかし、これまで自ら立てていた活動計画がいつの間にか安易な方向に流されてしまい、「自分」に負けたという悩み・悔しさはありませんか？

この本は、その「自分」をコントロールする、意志力を鍛えて確実に行動できるまでの科学的な方策を紹介しています。どうすれば自分をうまく駆使できるか、その仕方は人それぞれですが、この本を読むことで、目標に向けて自分という最大の敵を知り、思い通りにいかない自分と向き合うヒントを得ることができるかもしれません。「自分」に勝つことを目標にする人に特にお薦めです。

(文・頼 羽廷/学習支援センターセンター員)

# SLAとは

SLA(エスエルエー)とは、Student Learning Adviserの略です。SLAは、皆さんの大学での学びをサポートしてくれる“先輩”学生です。  
 ところで、なぜ“先輩”なのでしょう？

## “先輩”のチカラ

“先輩”とは、同級生でもない、教員でもない存在です。そのような“先輩”には、こんなチカラがあると考えています。

### 「わからない」「難しい」を共感してくれる存在

つい数年前に学部1・2年生だった“先輩”だからこそ、皆さんの悩みをよく分かってくれるはず。そんな“先輩”には、先生にはなかなか聞きづらいことも、安心して聞いてください！

### 一緒に悩んで考えてくれる存在

“先輩”といえども、やっぱり学生。先生のように、いつも完璧に質問に答えたり、ベストな方法で教えたりできるわけではありません。試行錯誤しながら、皆さんと一緒に悩み、考えます。しかし、こうして一緒に考えてくれる存在が近くにいることで、皆さん自身の考えるチカラが高まっていきます。

### 自分の少し先を歩いてくれている存在

皆さんにとって、1年後、3年後、5年後、自分がどうなっているのか、どうなっていなければならないのか、イメージするのは難しいと思います。ですが、1年上、3年上、5年上の“先輩”の姿を見ると、そのイメージが少し湧くのではないのでしょうか。

SLAに集まる先輩学生たちは、「大学での学び」に苦勞をした人も楽しんだ人も様々ながら、みんなそれぞれに「大学での学び」を経験し、様々な悩みや困難を乗り越えてきた学生たちです。そんな先輩の姿を見て、そんな先輩の話をお聴きすることで、きっと多くの発見や気づきが得られるはず。ぜひ

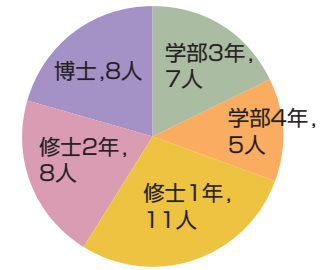


### 一緒に「楽しい」「面白い」を生み出してくれる存在

一緒に悩んで考えてくれるからこそ、「分かった」時の楽しさや面白さも、一緒になって感じてくれるのが“先輩”です。また、少し先を歩いていく“先輩”だからこそ、皆さんの不安や悩み、「分からない」部分を、楽しさや面白さ、「分かった」に変えてくれることも多いはず！大学の学びをぜひ一緒に面白いものにしていきましょう！

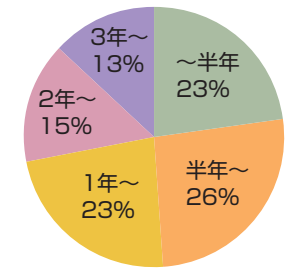
# SLAにはどんな人たちがいるの？

## 学年別



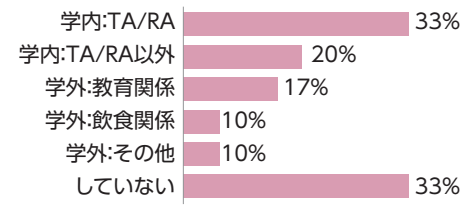
学部3年生から博士の学生まで幅広い学年の学生たちが所属しています。縦のつながりから得られることも多くあります。

## 活動年数別



平均継続年数は約1年半。大学卒業まで活動してくれるSLAが多いです。中には数年間SLAの活動を支えてくれているメンバーも！

## 他のバイトは？ ※複数選択



SLA以外でもアルバイトをしている人が7割を占めるようです。TAや教育系のバイトなど、教えることに関わるバイトも多いようですね。

## 受賞経験は？

「あり」…33%

- 【学内】物理学専攻賞、グローバル工学奨励賞、優秀卒業論文賞、青葉理学振興会奨励賞、数学科奨励賞、ほか
- 【学会】JSR2017学生講演賞、原子力学会フェロー賞、TopoMat2017 Poster Preview Award、BIOMOD2015 grand prize、ほか

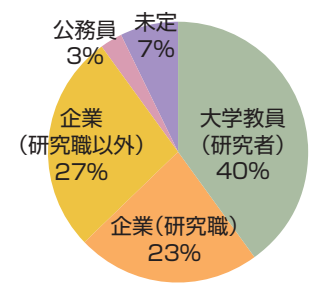
## SLAをするモチベーションは？

- 1位:学び直し
- 2位:自分の専門以外の人との交流
- 3位:お給料

## 趣味は？

散歩、ジョギング、筋トレ、スポーツ(サッカー、フットサル、サイクリング、スキー/スノボetc.)、野球観戦、登山、音楽(ギター、チェロ、トランペット、鑑賞etc.)、ライブ、カラオケ、旅行、ドライブ、ツーリング、カメラ、ビリヤード、漫画、アニメ、ゲーム、youtube、麻雀、将棋、ボードカードゲーム、料理、読書、物書き、映画鑑賞、美術鑑賞、コーヒー、日本酒、おいしいアイスさがし、ファッション、クイズ、日常で感じた疑問を考える、情眼

## 進路希望は？



大学教員や研究職を目指す割合が高いです。学問に熱心な人が多いんですね！

# SLA(学習支援者)としての学びの機会

学習は、自分が「できる」からといって、それを人に上手く「教えられる」わけではありません。また、単に教えるだけでなく、学びへのモチベーションを高めたり、学習者自身の学力を伸ばすよう「支援する」には、様々な知識やスキルが必要になります。そこで、SLAは学習支援者として成長するために、次のような機会学びながら活動をしています。

## OJT 対応記録の作成・リフレクション

学生への対応を行った際は、毎回「対応記録」を作成し、自分自身の活動を振り返るとともに、センタースタッフや他のメンバーと情報を共有するための資料としています。SLAの全ての活動は「やったら終わり」ではなく、個人としても組織としても成長していくために、成果や改善すべき点をしっかりと振り返り、経験や知見を蓄積しています。



## OJT ブリーフミーティング

毎日の活動終了後に、同じシフトのメンバー全員で行うミーティング。教科担当や専門が異なるSLA間の交流の場にもなっています。その日の活動の成果や反省点を共有・議論すると同時に、個人が感じた「楽しかった」「難しかった」といった感情的な側面も語り合うことで、SLA全体のチームワークを高めていく機会になっています。



## OJT チーム対応／ピアレビュー

SLAの質問対応や支援活動は、1対1で行われるものばかりではなく、SLA:学生が複数:1、1:複数、複数:複数など、様々な人数構成で行われます。何人かで対応を行なうことで、より良い支援を共に考えるチーム作りを行っています。

また2016年度からは、SLAが他のSLAの対応を観望し、意見交換をし合う「ピアレビュー」も取り入れました。



## OJT メンター制／シニアSLA

メンター制とは、新任メンバーにお世話役の先輩SLAを1人あてがい、新任メンバーがスムーズにSLAの活動に適応できるようサポートするものです。

またシニアSLAとは、後輩SLAの育成を担うSLAの中のベテランメンバーたちのことです。後輩SLAに対する指導・助言の他、センター全体の活動改善につながる提案を行ったりもします。



## Off-JT 活動説明会・活動報告会

前期・後期セメスターの始めと終わりに、全SLAが集まる会を設けています。セメスターごとに、センター全体の課題や目標を共有し、SLAにもセンターの在り方を共に考えてもらうことが狙いです。また、活動のアイデアを部会を越えて交換し合う場でもあります。



## Off-JT 部会活動

SLAでは、「物理」「数学」「英会話」など、教科担当別に「部会」を組織しています。各部会は月に1度の定例ミーティングを開催するほか、個別のプロジェクトを立ててシフト内で活動を行ったりします。普段のシフトではあまり顔をあわせない同部会のメンバーが集まり、情報共有と勉強会を行う定例ミーティングは、支援活動に直結する大事な学びの場です。



## Off-JT 夏期研修

夏期休暇中の1~2日間を使って、SLAの活動に関連するトピックについて集中的に学んだり、考えを深めていく集中研修を開催しています。2018年は、「自律的・主体的な学習者を育てる」ことをテーマにしたレクチャーに続き、大学1・2年生の学びへのモチベーションを考えるワークショップを行いました。



## Off-JT 共通研修

教科担当の枠を超え、学習支援者としての学びを深めるため、不定期に各種セミナーを開催しています。2018年は、留学生に対する日本語学習の支援方法について学ぶ研修に加え、コミュニケーションや場づくりのスキルを高めるために、インプロ(即興演劇)のワークショップを開催しました。



その他にも、「始礼」「ビデオリフレクション」「他大学合同研修」など、SLAではOJT・Off-JTの両面で様々な学びや研修の機会を設けています。その中で、「学習支援者」としての知識やスキルを高めてもらうと同時に、センターの活動全体がより良いものになるようSLAそれぞれが自律的に考え、行動してもらえようことを期待しています。



# SLAからのメッセージ♪

## 新1・2年生へ



竹熊健人くん(修士2年)  
数学担当, 2017年前期~

### やりたいことを見つけて、 踏み出すきっかけに

大学生の始めの1,2年というものはあっという間です。自分を振り返った時、何をやったのか覚えていないボーっとした空白の期間もありました。それは、今思えば非常に勿体なかったです。

大学には自分でやりたい事へ一歩踏み出せる時間も環境もあります。例えば、学業だったら多くの本を見つけられる図書館や分からない事を聞けるSLA。趣味・スポーツなら仲間を見つけられる多種多様な部活やセミナー。などなど。

是非、色々トライできる環境を活かしていきましょう。後々、振り返った時にどんなことでもいいから自分は大学でこれをやったという何かを見つけると良いですね。



鈴木志保さん(学部3年)  
企画担当, 2018年前期~

### 真面目にではなく、真剣に!

東北大学に入学してきた皆さんは、きっと人並み以上に“真面目に”勉強してきた人たちだと思います。私もそうでした。大学に入ってから、それなりに勉強も部活動も頑張ってきた方だと思っています。

しかし、大学生活をただ“真面目に”過ごすだけではもったいない。毎日の講義やレポートをこなすだけでなく(それも大事)、寝食を忘れて没頭できるような好きなものを見つけてください。何でもいいんです。見つけたらそれとことん向き合って、本気で取り組んでください。そうやって毎日を“真剣に”過ごしていけば、大学生活はとても充実するはずです。私はこれに気付くのが遅かったと後悔しています。どうか皆さん、“真剣な”大学生活を!



高根大地くん(博士1年)  
物理担当, 2014年前期~

### 自由な時間を無駄にしない

大学生は人生で最も自由で、自由だから難しい期間です。お金はないけれど若く感性豊かで体力と時間がある大学生での経験は非常に貴重なものとなるはずです。世界を旅しても、遊んでも、海外大学院に行くべく勉強してもいいですが後悔しないようにしましょう。遊ぶと決めたら後悔のないように遊び、だらげると決めたら全力でだらげ、勉強するなら究める、自由な大学生活を無駄にしないようにしっかり考えて過ごすのが重要だと思います。

## 未来のSLAへ



中島啓貴くん(博士2年)  
数学担当, 2013後期~

### 手を動かすきっかけを作る

大学での課題ってゲームでいうときなりハードモードの場合がありますよね。何から手をつけてよいか分からなかったり、全く歯が立たなかったりすると進捗なし事件になってしまいます。そんなときの有力なアプローチとして、チュートリアルや簡単なステージを作ってみることが挙げられます。学生自身で作っても良いですが、少し知識があるSLAの方がより適切に作成できるはず。チュートリアルを作ることで学生の手が動くようになりますし、どれくらい手が動くかで理解度を図ることができます。なにより学生が自分で考えやすくなります。手を動かすきっかけを作り、学生と足並みを揃えて一緒に考えることが学生の理解度の上昇につながっていきます。このように対応を工夫し、より良い学習支援を目指せるところがSLAの良いところの一つと感じています。



田偉辰くん(修士2年)  
英会話担当, 2017年前期~

### ただのバイト先じゃない!

私にとって、SLAはただの給料のバイト先ではなく、使命感と達成感を感じさせてくれる居場所です。

SLAの学習支援は、実は高等教育の一環として位置付けられています。このような使命感のある活動で、利用学生さんから「今日もいっぱい喋れてよかった」という満足の声をいただくたびに、掛け替えのない嬉しさを感じています。また、自分の提案や新しいアイデアがあるたびに、スタッフとメンバーは必ず耳を傾けてくれます。みんなと一緒に議論して何かを成し遂げた時に、「自分もSLAを成長させる一員だ」という達成感を強く感じます。

「誰かの役に立ちたい」、「みんなと共に成長したい」や、「高等教育に興味を持っている」と考えているあなたへ。その熱意はSLAにぴたりです!ぜひSLAの一員になって、活躍してください。



福地成彦くん(学部4年)  
企画担当, 2017年前期~

### 大学の学びを自分で作ろう

大学の授業や学習環境に対して「足りない」と感じることはありませんか? 私には、学生同士で専門分野以外のことを議論・対話する場所が足りていないのではないかという思いがありました。そこで企画SLAになり、日常のちょっとした問いについて哲学的に対話を行うようなイベントや、学生同士で問題を出して解き合うような場を作ることに取り組みました。あなたもSLAになって、足りないと思う学びを自分の手でつくってみませんか。

# [ スタッフ一覧 ]



▲後期活動説明会にて

## 物理

佐藤 諒	[ 理D2 ]
高根 大地	[ 理D1 ]
大野 敦	[ 理M2 ]
早坂 遼一路	[ 工M2 ]
小沢 輝弘	[ 理M2 ]
川田 七海	[ 理M1 ]
吉澤 拓哉	[ 理M1 ]
名古屋雄大	[ 理 4 ]
野本 大作	[ 理 4 ]
赤池 瑞生	[ 理 4 ]
早部 希	[ 工 3 ]

## 企画

鈴木 あすみ	[ 文D1 ]
松村 健吾	[ 工M2 ]
葉 晶晶	[ 経M2 ]
西塚 孝平	[ 教M1 ]
鏡 耀子	[ 文M1 ]
福地 成彦	[ 理 4 ]
工藤 さやか	[ 文 4 ]
鈴木 志保	[ 文 3 ]

## 数学

中島 啓貴	[ 理D2 ]
伊東 邦大	[ 理D2 ]
三宅 庸仁	[ 理D1 ]
浅野 喜敬	[ 理M2 ]
竹熊 健人	[ 理M2 ]
渡辺 孝佳	[ 理M1 ]
森 祥仁	[ 理M1 ]
稲吉 晴子	[ 環M1 ]
佐藤 俊	[ 工 3 ]

## 英語

酒井 祐輔	[ 文D2 ]
田 偉辰	[ 国文M2 ]
樋口 靖浩	[ 工M1 ]
米田 佑	[ 教M1 ]
田村 惇	[ 文M1 ]
韓 吉輝	[ 工 4 ]
水野 彩子	[ 薬 3 ]

SLA  
2018年度

## 化学

三上 進一	[ 理M2 ]
鹿野真史亜	[ 薬 3 ]
中村 祐輝	[ 工 3 ]

## ライティング

玉田優花子	[ 文D2 ]
木村真理子	[ 文D2 ]
相原 貴次	[ 文M2 ]

## スタッフ

芳賀 満	[ センター長 ]
佐藤 智子	[ 副センター長 ]
縣 拓充	[ 助教 ]
頼 羿廷	[ 助教 ]
鈴木 真衣	[ 事務 ]



SLA を活用して、  
大学での学びを  
充実させてください♪